



普段着の私



医療ソーシャルワーカー 山森 和也

皆さんは「大道芸」を見たことがありますか？遊園地などで人だかりを覗いたらその中心でパフォーマンスを行っていたなんて経験のある方も居られると思います。私がこの世界を知るようになったのは、ウチの二男坊がマジックを始めてから、そのパフォーマンスの勉強のために大道芸イベントに家族で出かけるようになってからです。最近はその芸や雰囲気によって魅せられてしまい、11月に開催されたアジア最大のイベント「大道芸ワールドカップ in 静岡」にも出かけ、世界のパフォーマンスを堪能してきました。大道芸にはアクロバットやジャグリング、マジックなど多種多様なジャンルがありますが、中でも一押しはバルーンパフォーマンスのアキさんとメイさんです。メイさんはリハフェスタにもお越しいただいたのでご覧いただいた方も居られると思います。大道芸は街を元気にします。私も元気をもらっています。近くに大道芸人の方が来られたら是非一度ご覧下さい。今まで知らなかった新しい世界が広がるかもしれませんよ。



薬剤師 中山 未来

みなさんが「楽しい!」「わくわくする!」と感じるのはどんな瞬間ですか？

いろんな瞬間で感じると思いますが…私は特に、旅行へでかけ目的地に到着した瞬間に感じます。いつもと違う風景に感動し、ご当地グルメをお腹いっぱい食べ、そして現地の人と触れ合えることが旅行の魅力です。また、行先を決めてどの様に巡ろうかと事前にプランをたてることも楽しみのひとつです。綿密なプランをたてて出発しても、毎回なにかしらのハプニングがおこり、それはそれで良い思い出となっています。

旅行から帰ってくると、明日からも頑張ろうとやる気がみなぎってきます。時間をみつけ、また旅行に出かけようと思います。目指せ47都道府県制覇☆



植物のある暮らし

小正月（こしょうがつ）

園芸療法士 黒部 一之

初日の出、初詣、初出勤と何かと「初」が続き、大切なご家族とのゆったりした時間を送ることができたでしょうか。正月気分もそろそろ抜ける頃だと思います。小正月とは、正月15日の行事です。地域により、望（満月）の日、または14日の日没から15日の日没まで、または元日から15日までと位置づけられています。所により女正月と呼ぶ地域もあります。これに対し元日、または元日から7日までを大正月と呼ぶことがあります。いずれにしても古くから、望（満月）の日を月初めとしていた名残りと考えられます。



この日の朝には、邪気を払い、一年の健康を願って小豆粥を食べる風習があります。望粥（もちがゆ）とも呼びます。小豆の赤色には邪気を払う力があると信じられており、宮中では七種粥が食され、紀貫之の『土佐日記』でも小豆粥を食したと記述されています。また古来から赤色の植物は、祭祀の場やハレの日に用いられてきました。門松に使われる南天、千両、万両。還暦を祝ったちゃんちゃんこ。虎屋の羊羹などなど。

また14日の夕刻または15日の朝に、田んぼに長い竹を4～5本組み、門松・注連飾り・書き初めを持ち寄って焚き上げます。地域によって左義長、どんと、どんとと呼ばれる毎年恒例の行事です。餅・三食団子・柳や山法師に刺した団子などを各家から持ち寄り、焚き上げた火に炙ったり、灰で温めてから食べます。炊き上がった灰を持ち帰り、家の周囲に撒くと無病息災を実現できると言い伝わります。



リハビリテーション西播磨病院だより

ひがりの都

2017年
1月発行



新年のご挨拶

院長 横山 和正



皆様、あけましておめでとうございます。

リハビリテーション西播磨病院は、開院以来、11回目の正月を迎えました。昨年6月には、金澤副知事をはじめとして多くのご来賓と設立に関係された方々にご参加をいただき、西播磨総合リハビリテーションセンター全体として開設十周年行事を盛大に行うことができました。また、9月には、恒例の秋祭り「リハフェスタ」を多くの地域の皆さまとともに楽しく過ごし、10月には、県民公開講座「リハビリとともに暮らすパーキンソン病」というテーマで、200名の参加者と一緒に、パーキンソン病についての理解を深め、薬をのむ以外に生活で何が必要か、考える機会をもつことができました。

西播磨病院は、開院以来、『地域とともに歩み、成長するリハビリテーション専門病院』を運営理念として、たとえ、病気になるって、あるいは、けがをして、障害が発生しても、西播磨の人々がそれぞれ希望する形に地域で生活できるように必要なリハビリや生活支援をする環境と医療サービスを提供できるようにこれまでも努力し、これからも、ぶれずにこの道を歩んでまいります。

新しい取り組みとして、今年の春には、脳血流装置SPECTが稼働し、脳疾患の診断の質のさらなる向上が期待できます。また、昨年から、脳磁気刺激による脳卒中慢性期の運動麻痺への治療を開始し、実績を積み重ねているところです。

今年も、西播磨地域の皆さまに質のさらに高いリハビリを提供するよう、職員とともに研鑽を積んでゆきますので、住民の皆さまからのますますのご支援をお願いいたしまして、私の新年のご挨拶とさせていただきます。

「リハビリとともに暮らすパーキンソン病」

平成28年10月15日（土）

10月15日（土）、当西播磨総合リハビリテーションセンター研修ホールにおいて、「パーキンソン病への正しい理解と、当院のパーキンソン診療の取り組み」を紹介することをテーマとした県民公開講座を開催しました。

地元西播・中播地域の患者さんやそのご家族などから数多くの参加応募をいただき、当日は天候にも恵まれ、予定参加人数を大幅に超える189名の参加者をお迎えすることとなりました。



午後1時、横山院長の主催者あいさつから始まり、引き続き講演では、院長から、パーキンソン病と現代における最新の治療方法について、当院丸本医長からはパーキンソン病におけるリハビリ実施の効果と当院の取り組み内容について、当院リハビリ療法部からは、実演等を交えた当院で行っている最新のリハビリについて、看護部からは、パーキンソン病の食事指導等について講演を行いました。途中休憩を挟み、午後3時20分、予定終了時間を少しオーバーしましたが、無事に終了することができました。

講演内容については、それぞれの担当が直前まで推敲を重ねるなど、かなり熱の入った準備をしておりました。期待と不安の中で講演に臨みましたが、終了後のアンケートで数多くのお褒めの言葉をいただき、報われた気持ちでいっぱいとなりました。

今回は、地元の西播磨地域以外の方や、医療専門職種の方の参加も数多くあり、幅広く当院の取り組みを広く知っていただく良い機会とすることができました。

ご参加いただいた皆様には、心より感謝を申し上げます。



反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS）と集中的リハビリで脳を活性化



これまで脳損傷後の麻痺などの症状の回復は6ヶ月の壁があるといわれ、慢性期や進行性神経変性疾患では回復しないと思われてきました。しかし、近年の脳科学の目覚ましい発展により損傷後6ヶ月を過ぎた慢性期や神経変性疾患でも上手に回復する力（**脳の可塑性**）を誘導すると症状が回復することがわかってきました。

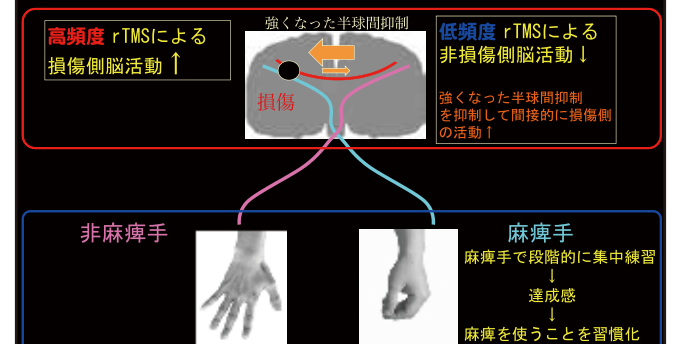
その脳の可塑性を誘導する方法として反復経頭蓋磁気刺激治療（rTMS）があります。現在、世界的にも注目されている先進的治療法であり、『**脳卒中慢性期片側上肢麻痺**』『**パーキンソン病のすくみ足**』などの症状に期待されています。

図1. 反復経頭蓋磁気刺激治療 rTMS

- 2つのアプローチ
 - (a) **高頻度**rTMSを用いた脳局所の**活性化**
 - (b) **低頻度**rTMSを用いた脳局所の**抑制**



図2. rTMS併用集中的リハビリ治療の考え方



●磁気刺激を**高頻度**で行うと脳を活性化、**低頻度**で行うと抑制することができます（図1）。

●脳には左右があり、正常では左右それぞれの脳が暴走しないように抑制しあってバランスをとっております（半球間抑制）（図2）。

しかし、脳卒中になると相対的に非損傷側からの抑制が強くなり、さらに損傷側の脳の機能が低下するといわれています。そこで、脳卒中の上肢麻痺の治療としては非損傷側に低頻度rTMSを行い、その後に集中的に作業療法を実施します。脳は使えば使う程、その脳領域が活性化することがわかっております（**使用依存性の可塑性**）。

当院でも『**脳卒中慢性期片側上肢麻痺（発症後6ヶ月以上経過）**』『**パーキンソン病の難治性すくみ足**』に関してrTMS併用リハビリを開始しました。詳しくは当院総合相談・地域連携室にお問い合わせください。



＜お品書き＞
カニすき・お造り(甘えび)・
カニ味噌・カニ雑炊・フルーツ



松葉ガニなら、山陰浜坂で！

カニファミリープラン
平日1泊2食、1室2名様利用
大人お一人様(一般の方)

10,790円(税込)

バリアフリーのお宿

浜坂温泉保養荘

☎(0796)82-3645

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
http://www.hamasaka-ni.com/

